

第 17 回日本在宅医学会もりおか大会 一般・指定演題

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	町田市における多職種連携研修会「町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト」の報告と現状
演者名	栄山 雪路、川村 益彦、西嶋 公子
所属	町田市医師会

目的：在宅医療を普及させるためには、在宅医療を行う医師を増やすこと、多職種間の連携を深めることが重要である。今回、この二つを目的とし、町田市医師会が中心となって研修会を開催したので報告する。

実践内容：「柏プロジェクト」をモデルとした多職種連携研修会「町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト」を開催した。実行委員および参加者は、医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護師、MSW、ケアマネジャーと、高齢者支援センター、訪問介護、デイケア、デイサービス、町田市の各職員であった。摂食嚥下・褥瘡・認知症の講義とグループワークのほか、町田市の地域特性・社会資源をもとに問題点を考えるグループワーク、若手医師による「疑似喪失体験」などを行った。

実践効果：医師会と市の協力体制、多職種間の連携が強化された。参加者からは「医師と話がしやすくなった」、「人を全体で診る（看る）ためには職種に関係なくフラットな関係を作ることが重要であると感じた」などの意見が聞かれた。その後「町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト推進協議会」が発足し、地域ケア会議が活発に行われるようになったほか、研修会・勉強会の開催、喀痰吸引研修会の開催、市内完結を目指した医療体制作りなどを行っている。

考察：行政を巻き込んだ多職種間の連携を深めることができた。特に多職種でのグループワークが有用であった。在宅医を増やすことは引き続きの課題となっているが、参加した医師の意識を変えることはできたと考えており、今後の地道な呼びかけが必要と思われた。